

[illegible]

フォトポエムの創作活動の紹介

あ
あ
青い空

みんなであくくくく
一緒にくるくる
いろいろな色の友達と
一緒にくるくる

プロジェクトの概要

このプロジェクトは、写真と言葉を組み合わせた「フォトポエム」という詩を、写真と言葉を往復させながら創作していく中で、言語活動の充実をめざすプロジェクトです。

視点を変えて対象を見つめ直し、子どもたちに新たな気づきを促したり、五感で感じた感動を意識化し表出したりする手だての一つとして、写真を活用します。また、写真から言葉を引き出し、写真と照らし合わせながら言葉を吟味させていくことを通して、表現力を高めていきます。そのためには、撮影時の課題意識のもたせ方、子どもたちが詩をブラッシュアップさせていく過程での教師の支援や、子ども同士の関わらせ方が大切だと考えています。

さらに、学校間交流やコンテストなどの様々な評価活動を通して、一人一人の感性のすばらしさを互いに感じ取らせ、表現に対する関心を高めていきます。



4年生児童作品

メディア創造力の育成

写真撮影の場面で

- ・写真を撮影する活動を通して、驚きや感動を見つけ記録していく楽しさを味わうことができる。【A-3-Lv1】

詩の創作場面で

- ・写真から自分の感動や気付きを読み取り、感じたことが相手に伝わるように言葉を吟味しながら言語化することができる。【B-2-Lv3】

写真と詩を組み合わせる場面で

- ・映像や言葉が伝える内容を考え、効果的な言葉の組み合わせ方や文字の配置等を工夫し、効果的な表現方法について考えることができる。【C-3-LV3】

作品の評価の場面で

- ・互いの作品を評価し合う活動を通して、自分や友達の感性や表現のすばらしさを味わうことができる。【D-3-Lv3】

[メディア創造力到達目標（リンク）](#)

D-Projectプロジェクト 2019

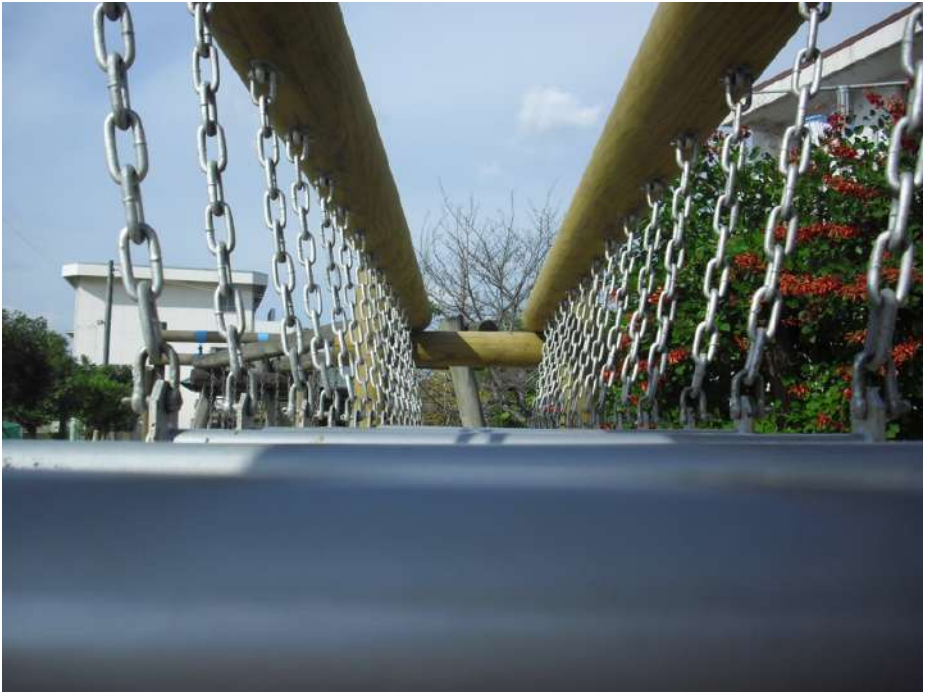
	A 課題を設定し 解決しようとする力	B 制作物の内容と 形式を読み解く力	C 表現の内容と 手段を吟味する力	D 相互作用を 生かす力
	A	B	C	D
▶ 寺子屋リーフレット制作	◎		○	
▶ プログラミング教育	◎			
▶ iTunesU 教材制作	◎		○	
▶ 特別支援アラカルト	◎			
▶ 新聞教材活用		◎	○	
▶ デジタルリーフレット		○	◎	
▶ フォトポエム	○		◎	
▶ Everyone Can Create	○		◎	
▶ クレイアニメプロジェクト				◎
▶ 国際協働学習の設計と評価	○		○	
▶ NHK for School	○	○		

活動の流れ

学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動（○）と内容（・）
相手意識・目的意識をもつ	1	フォトポエムの作品を鑑賞する中で、表現の特徴を理解させると共に、学習の見通しを持たせる。	○ フォトポエムの作品の鑑賞をする。 ・ 作品の良さを伝え合う中で、フォトポエムの表現の特徴をつかむ。 （写真の撮り方・言葉の付け方・文字の大きさ、配置などのよさ）
見る	1	対象を様々な視点で撮影し、子どもたちの驚きや新しい発見をすることができる。	○ 写真の撮影をする。 ・ テーマに沿って、デジタルカメラやタブレット端末で、見方を変えながら撮影をする。
見せる・つくる	2	写真から言葉を引き出し、写真と照らし合わせながら言葉を吟味することができる。 写真と言葉を組み合わせながらデザインを工夫し、表現の効果を高めることができる。	○ 五感を使って言葉集めをする。 ・ 五感を意識しながら、写真から言葉を引き出す。 ○ 詩を創作する。 ・ 感動や驚きを表す言葉を吟味したり、並び替えたりして、感動の中心や自分のこだわりを明確にさせながら、詩の形に整える。 ○ 写真と詩を組み合わせるフォトポエムを作る。 ・ 文字の配置や色、フォントなど、デザインを工夫する。 ・ 写真と言葉の相互の働きを考えて、より効果的な表現を工夫する。
振返る	1	相互評価をすることで、自分や友達の感性の素晴らしさに気づき、表現することのよさや楽しさを実感することができる。	○ 学級や学校間で作品発表会を行う。 ・ 学級や学校間で作品発表会をし、感想や意見を交換し合う。



撮影の様子



撮影した写真

子どもたちの様子や教師の手だての工夫など

写真を撮影する場面での支援

「〇〇小の小さな『あっはっおっ！』を、見つけよう。」というテーマで、感嘆詞が付くような小さな驚きや発見を、デジタルカメラ等で撮影する。近づける、見上げる、見下ろす、目線を低くする、のぞき込むなどのカメラの撮影方法を例示することで、日常をこれまでとは違う見方で切り取ることができる。

詩の創作の場面での支援

まず、撮影した写真から、自分の思いが強く表れている写真を選択する。感動の中心をはっきりさせるために、自分の感動や思いを一言で表現させる。表現に苦手意識をもっている子どもも、写真を手がかりにしながら「その時どのように感じたのか」「対象はどんな気持ちなのか」などと考えることとで、想像を膨らませながら言葉を紡ぎ出すことができる。

「メディア創造力」育成は、ここで！

写真と言葉の往復の中で育てる

フォトポエムは、写真があることで、撮影した時の自分の感動や思いを意識化することができる。そのため、自分の感動や思いと表現した詩とのずれをメタ認知することができる。さらに、「自分の思いにぴったりの言葉になっているか」、「詩が写真の説明になっていないか」、「より効果的な表現になっているか」などと、教師が問いかけることにより、子どもたちは自分の思いと言葉を照らし合わせたり、写真と言葉の役割を考えたりしながら、主体的に言葉を吟味することができる。

相互評価で育てる

フォトポエムは、写真の撮り方のよさ・詩の言語表現のよさ・写真と詩の組み合わせ方のデザインのよさという、大きく3つの評価の観点がある。そのため、多様な観点で感性や表現を認め合うことができるので、協働的な学びに必要な学級の支持的風土の醸成にもつながる。

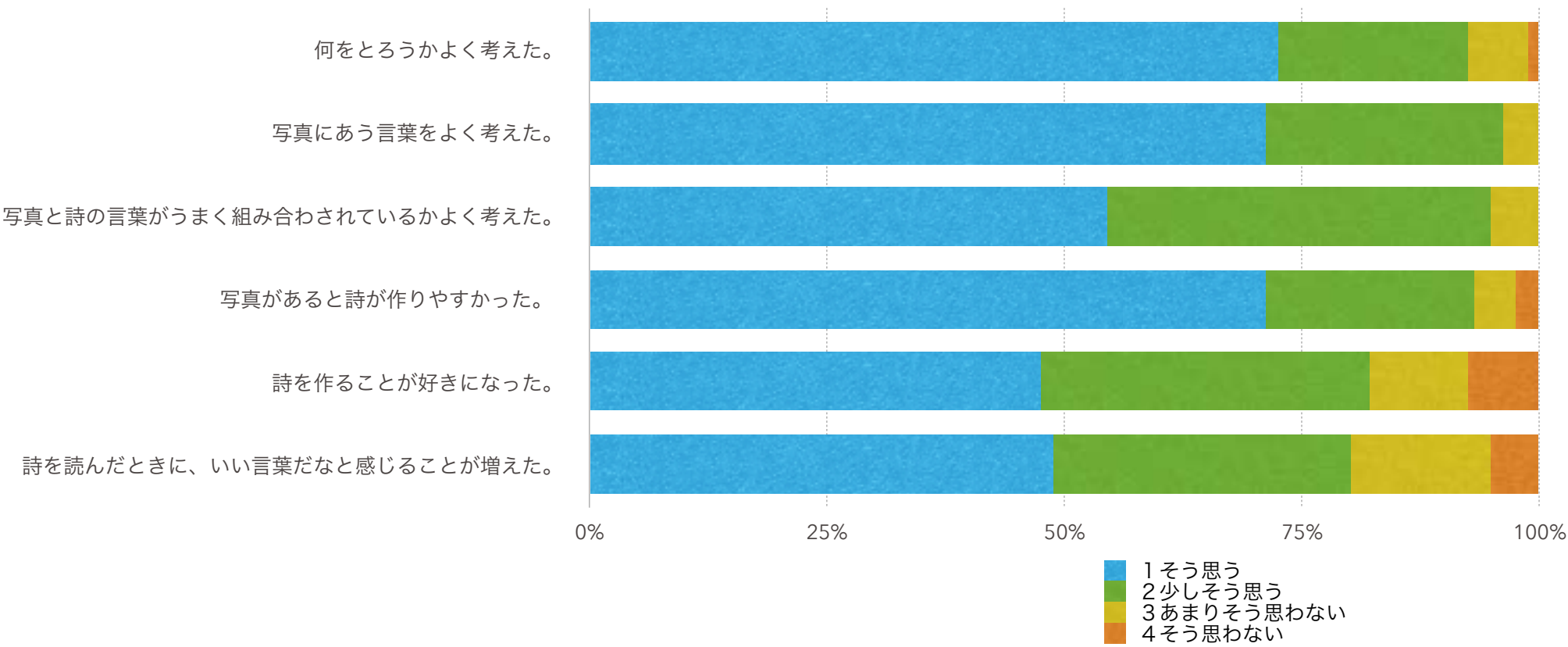
さらに、他校の友達の作品を評価し、どの作品が一番よいのかを伝え合う学校間での評価活動を行うことも可能である。子どもたちは、選んだ根拠を相手に伝えなければならないので、相手意識や目的意識をもって評価活動を行い、その中で写真と言語を組み合わせた表現に対する評価観を深めていくことができる。

メディア創造力の評価

フォトポエムの教育効果を明らかにするため、小学校3～6年生156名を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査から、写真を核として、自分の感動や新たな発見を意識化し、創作活動全般で思考しながら活動を行っていることが明らかとなった。また、表現に対する意識が高まっていることも分かった。

このように、フォトポエムの実践を通して、子どもたちは、表現力や感性を中心としながら、メディア創造力を高めた。

H27年度フォトポエムに関する児童の意識調査



学級内での相互評価の様子



テレビ会議で学校間交流

フォトポエム作品集

低学年



